

特集

連続講座「国民国家と多文化社会」第19シリーズ

格差拡大社会とグローバリズム

主催：国際言語文化研究所／国際言語文化研究所ジェンダー・スタディーズ研究会

日時：2008年10月25日(土)15:00-18:00(第1回)／11月14日(金)14:00-17:30(第2回)

11月21日(金)15:00-18:00(第3回)／11月28日(金)16:00-19:00(第4回)

会場：立命館大学末川記念会館第3会議室(第1回)／明学館83教室(第2-4回)

第1回 シングルマザーの今を考える——「格差社会」の流れの中で

報告：神原文子(神戸学院大学)「現代日本の子づれシングルと子どもたち」

大森順子(NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西)

「ひとり親家庭で育つということ」

風間成美(NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西)

「体験と事例から見える、シングルマザーの現状」

司会・ディスカッサント：岡野八代(立命館大学)

第2回 格差社会と文学1——桐野夏生を読む

報告：種田和加子(藤女子大学)「格差社会と娼婦—桐野夏生「グロテスク」を検証する」

金子幸代(富山大学)「高齢者格差問題と桐野夏生の『魂萌え!』」

四方朱子(北海道大学大学院)「『メタボラ』—搾取をどう描くのか」

司会・ディスカッサント：中川成美(立命館大学)

第3回 格差社会に憲法はなにを言うことができるのか?——「生存権」をめぐる対話

報告：笹沼弘志(静岡大学)「生存権と『自由な社会』の構想」

遠藤美奈(西南学院大学)「生存と傍観—「私たち」と他者」

司会・ディスカッサント：岡野八代(立命館大学)

第4回格差社会と文学2——弱きものとしての子供

挨拶：西成彦(立命館大学)

報告：菅聡子(お茶の水女子大学)「〈細民〉としての子ども—樋口一葉の小説を視座に」

林相珉(九州大学大学院)

「商品化される貧困—『にあんちゃん』と『キューポラのある街』を中心に」

鳥木圭太(立命館大学大学院)

「プロレタリア文学と児童労働—佐多稲子『キャラメル工場から』の描いたもの」

司会：友田義行(立命館大学)

※上記はシンポジウム当日のプログラムであり、本号に報告が収録されていない場合もあります。